

# 琉球大学学術リポジトリ

## 八重山諸島における女性神役の継承： 波照間島と石垣島の事例から

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2014-08-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 阿利, よし乃, Ari, Yoshino メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/29434">http://hdl.handle.net/20.500.12000/29434</a>

琉球大学大学院  
人文社会科学研究科委員会 殿

博士論文審査委員会

主査 山里純一 印  
副査 浜崎盛康 印  
副査 池田榮史 印  
副査 津波高志 印

学位（博士）論文審査の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、学位論文の審査を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号	108094G	学生氏名	阿利 よし乃
人文社会科学研究科 比較地域文化専攻		主指導教員	山里純一
		副指導教員	浜崎盛康/池田榮史/
成績評価	学位論文	○合格 不合格	
論文題目	八重山諸島における女性神役の継承 - 波照間島と石垣島の事例から -		
審査要旨	<p>奄美諸島から八重山諸島にいたる琉球弧の島々で、村落祭祀における儀礼の主導的役割はノロ、ニガミ（根神）、ツカサ（司）などと称される女性神役が担っている。本論文はその女性神役の八重山諸島における継承方式を課題として取り上げている。</p> <p>先行研究は、祖先（共祖）と子孫との系譜上の系統的關係から神役の継承方式を捉える「出自論」と、巫病や靈的資質に焦点を据えた「巫病論」に大別されるが、研究の流れとしては「出自論」という社会構造の問題から「巫病論」という民俗宗教の問題へ視点が転換しつつある。本論文は、先行研究における最大の問題点は、社会構造と民俗宗教とを非連続的に捉えたことにあると指摘した上で、最近の奄美研究の成果から導かれた連続的捉え方（「二段階過程説」）に注目し、その視点から、波照間島、石垣島の白保、川平、新川、登野城、平得の各地域で自ら行った調査と先行研究の記述に基づき分析を行っている。その結果、ツカサの継承は出自のラインを辿って決定されるのではなく、まずトゥニムトゥのようなツカサ継承家を軸にして、そのファーマー（子や孫）という一定範囲の關係者が後継候補者として挙げられ、その中から神籤という神意によって最終的に決定されている実態を解明している。</p> <p>本論文は、奄美における「二段階過程説」をコンテクストの違いに配慮しながら用い、手堅い手法で説得力のある結論を導いており、審査委員会では博士論文の水準に十分達していると判断した。</p>		

様式第14号

琉球大学大学院  
人文社会科学研究科委員会 殿

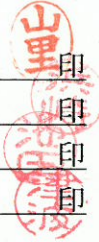
博士論文審査委員会

主査 山里純一

副査 浜崎盛康

副査 池田榮史

副査 津波高志



### 最終試験の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、最終試験を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号 108094G	学生氏名 阿利 よし乃		
人文社会科学研究科 比較地域文化専攻	主指導教員 山里純一 副指導教員 浜崎盛康/池田榮史/		
成績評価	最終試験	○合格	不合格
要旨	副査浜崎盛康の統括のもとで、申請のあった博士論文の内容とそれに関連する授業科目について、口頭による最終試験を行った。 本論文題目は「八重山諸島における女性神役の継承 - 波照間島と石垣島の事例から - 」であり、以下の三点を軸に試験を行った。 まず、口頭試問での関連質問を行い、本論文が学位の水準に達していることを確認した。次に、本論文に関連する基礎的な専門知識や自らの論文の研究上の位置づけを査読論文等の既発表論文や学会等での研究発表を含めて問い、研究上の貢献があったことを確認した。そして本論文で取り上げた研究分野に係る授業科目、「琉球民俗学」「比較地域文化」などの視点において、学位に相応しい研究能力とその学識を有していることを確認した。 以上の点から、本審査委員会は、本論文に加え、その分野における学位の水準に達していると認め、最終試験に合格と判断した。		